

## 「ニシヨレーエ」を尋ねて

— インターネットの旅 —

林 尚孝

鷗外の「我百首」第26首は、外国人女性との濃密な恋愛を連想させ、赤ワインを思わせる「Niscioreeの酒」を詠み込んだつぎの歌である。

すきとほり真赤に強くさて甘き

Niscioreeの酒二人が中は

この第26首から第60首までの相聞歌とみられる歌の配列から、相手の女性はいりぜ・ヴィーゲルトであるとの見当をつけたものの、「Niscioreeの酒」がわからない。その手がかりを求めてインターネットで検索してみたのは二〇〇五年二月のことであつた。「Niscioree」に合致するイタリアのURLがひとつ見つかり地名のようであつたが、その内容は理解できなかった。

共同研究者の小平克にそのことを伝えると、彼はイタリア大使館、イタリア文化会館、日伊学院、イタリア政府観光局、スイス大使館、スイス政府観光局、日本ソムリエ協会、洋酒輸入業者などに文書で問い合わせた。その結果、イタリアの作家アントニオ・フォガッツァーロの小説『昔の小さな世界』(Piccolo Mondo Antico)の中に、鷗外が詠った「Niscioreeの赤ワイン」が登場することが判明した。東京大学総合図書館

に、鷗外蔵書印のあるドイツ語訳の小説「Piccolo Mondo Antico」が所蔵されているので、鷗外はこの小説を読み、第26首を作ったものと考えてよい。その経緯については「通信」に報告してある(1)。

小平の調査から、Niscioreeは、Como湖畔のValsoldaという町の近くのOriaという村に実在する屋敷名であるという情報が得られた。Fogazzaroの小説を読むほかはないと考えたが、入手が難しくまたイタリア語では手に負えない。気にかげながら三年余が経過してしまった。

昨年一〇月に刊行された著書(2)の中で、岡井隆は、「ニシヨレーエ」と「我百首」について次のように述べている。

いつだったか歌人の資延英樹さんと話をしていた「ニシヨレーエの酒」の話が判らないんだよ」といふしたら、早速インターネット検索してくれて、イタリア北部のプロウ酒らしいですよと教えてくれた。鷗外は、たぶんイタリアの作家アントニオ・フォガッツァーロ(一八四二—一九一一)の作品の中からこの酒の名を知つたらしいといふのである。……ニシヨレーエの酒が甘美で赤い酒だというあたりの描写(フォガッツァーロの小説の一節)も、資延さんは見つけてくれた。「我

百首」の二十六番目の歌は、

(26) すきとほり真赤に強くさて甘

きNiscioreeの酒二人が中は

というのである。北イタリア、コモ湖畔というのは、わたしも一度訪れたところがある。むろんニシヨレーエというワインの名産地は知らなかった。今地図で見ても簡単には見つからないようである。鷗外の歌は、二人の恋のありさまを「すき透っていて、真赤で、強く、しかも甘いニシヨレーエのワインのようなものですよ」と自慢(?)しているようだ。

岡井は、ニシヨレーエをコモ湖畔にあるワインの名産地としているが、肝心な恋仲の二人については述べず、またFogazzaroの書名についても触れてはいない。

Niscioreeが気になりながら放置してあつた。たまたま、ネットサーフィンをしていて「Fogazzaroを調べたところ、昨年二月に英訳版のリプリントが米国で出版されたことを知り註文した。七月半ばに入手したが、その題名は「The Patriot (Piccolo Mondo Antico)」と修正されていた(3)。原本を米国で復刻しているため、版面は新書判なのに、本体は変形菊判(52×227×27mm)という珍しいものであつた。前書きには、イタリア人は本を買わずに町中で回

し読みし、ばろ肩や新聞紙の表紙になって帰ってくるなかで、本書は四四刷を重ねたとある。英訳本のほか、鷗外は独訳本を読んでおり、当時ヨーロッパでは評判の高い小説であったことが分かる。読み始めてみると、たくさん出てくる地名が分からない。

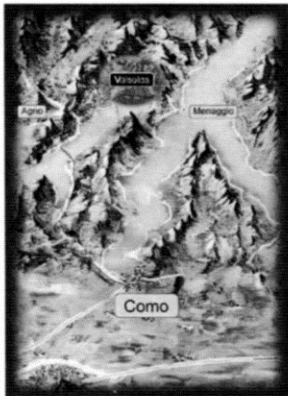
神田神保町にある外国地図専門店マップ・ハウスを訪ねた。豊富な知識をもつ店員は、たちどころにイタリア北部の一番大きな縮尺(十万分の一)を選び出してくれた。コモ湖周囲を丹念に探しても、Valsold は見つからない。諦めかけて、コモ湖の西にあるルガノ(Lugano)湖の周囲を探したところ、北岸に Valsolda も Orta も見つかった。

Valsolda に関する情報は、インターネットから簡単に入手できた。改めてネットサーフィンをしてみて、四年前とまったく様変わりしているのに驚いた。Google での検索結果は、「Valsolda」は四三万件にのぼった。当時たったひとつしかなかった「Nisciore」も四七件がヒットした。これは、Google の検索エンジンの性能向上(全文検索)とインターネット利用者(出版社、旅行者、不動産業者などの宣伝や旅行者のブログ)の増大の結果と考えてよいのだろう。

Valsolda は、ロンバルディア州コモ県にある地方自治体名であり、ミラノから八〇 km コモから四〇 km の距離にある。

Valsolda の人口は約一六〇〇人であるから、わが国の村に相当すると考えてよい。ニシヨレがあるオリア(Orta)はヴァルソルダにある一一の集落のルガノ湖沿いのひとつである。Nisciore は地名であり、同時に屋敷名でもある。小平の調査によれば、「Nisciore は、言語としては、Lombardia 地方の方言で、nocciolatoio または nocciolatoio に関係があつて、ハシバミの実ができる土地(ハシバミ林)またはハシバミやさんの別荘(villa Bianchi)のこと」である。ハシバミとは、ヘイゼルナッツのことである。

「Google Earth」を用いれば、「地球上のあらゆる場所にジャンプして、衛星画像、地図、地形、3D の建物を表示でき、銀河の彼方から海底峡谷まで訪れることができる」Valsolda について試みたところ、ルガノ湖北岸を表示し、Orta その他の集落の所在も確認できた。ルガノ湖の標高二七一 m、最



左手にルガノ湖、右手にコモ湖  
手前にComo、奥にValsolda

大水深二八八 m から想像できるように、湖岸から急峻な山が迫っている地形が一目瞭然である。(距離)定規を使うと、スイス国境から Orta までは一 km である。

パソコンが現在のように手近な存在になるまえ、野口悠紀雄が「コンピュータは研究に不可欠である」と留学先の経験を書いているのを見て羨ましく思った。コンピュータではキーワードから想定外の文献に遭遇し、予想外の発展をみることがあった。野口悠紀雄の予言、「研究手段としてのインターネットの重要性」は今後ますます重みを持つてくるものと思われる。

共同研究者小平克氏のご尽力と、インターネットに詳しい二村一夫法政大学名誉教授のご助言に感謝申し上げます。

- (1) 林尚孝:「我百首」をめぐってーフォガッツァーロの小説と第二六首ー、「通信」一五六号、二〇〇六年一〇月
- (2) 岡井隆:「鷗外・茂吉・李太郎」ー「ટેヘス百門」の夕映え(書肆山田、二〇〇八年一〇月)
- (3) Antonio Fogazzaro, translated from the Italian by M. Prichard-Angeli: 「The Patriot (Piccolo Mondo Antico)」, G.P. PUTMANN'S Sons, New York and London, 一九〇六年

# 森鸥外纪念馆通信

No.168 秋

## 【『鷗外』「通信」原稿募集】

『鷗外』86号はただ今編集作業中です。87号の原稿を募集しております。三月一五日までにご投函ください。

### 〈投稿規程〉

- 森鷗外記念会会員であること。
- 四百字詰原用紙四〇枚（一六〇〇〇字前後）程度であること。
- 採否は編集委員に一任すること。
- 「記念会通信」169（冬）号へのご投稿は一月十日までに。字数は三千字程度、それ以下の短いものでも結構です。

### ○会費納入のお願い○

平成二十一年度の会費が未納の方は早めにお支払いをお願いいたします。

## 森鷗外記念会通信

No. 168

発行 平成二十一年十一月十五日  
（年四回発行・四・七・一〇・一月発行予定）  
編集責任者 倉本幸弘  
発行所 森鷗外記念会

郵便番号・一一三—〇〇二二

東京都文京区千駄木一—二三—四

電話・〇三—五八三四—〇一五六